Central Group for life

せんとらるライナー 5号

2010年5月号
…毎月1日発行…
セントラルグループ
恵那市大井町1202-4

古民家を活用！ 小規模多機能型居宅介護事業所「ケアホームあじさい」がオープン

・畳敷きの和室、明智川や春には桜を眺められる大型ウッドデッキを完備

平成22年3月25日有限会社トータルケア代表取締役田北英美子が恵那市明智町に小規模多機能型居宅介護事業所「ケアホームあじさい」をオープンしました。

小規模多機能型居宅介護事業所とは「通いデイサービス」「訪問ヘルパー」「泊まりショートステイ」のサービスを柔軟に組み合わせ、365日　時間提供する介護の効果的な施設です。「利用者様が、自分の家にいるようにゆったりと過ごして頂けることを一番大切にしている」（トータルケア社代表・田北氏）というようにケアホームあじさいは以下の特徴を持っています。

浴室の床は畳敷き

建物は築１８０年の古民家をベースに建築

・浴室は様々な状態の方がゆったり入浴できるように畳敷きの床を採用

こうした、古い民家を改修し、昔の住宅の面影を残した高齢者向け介護施設が注目を集めています。「コンクリートの建物と違い、家庭のようなぬくもりがある」と、利用者の評判は上々。専門家からは認知症の改善に役立つ効果も指摘されています。

大型ウッドデッキ

介護や地域福祉に詳しい石川満・日本福祉大教授は『高齢者にとって昔住んでいたような古い民家を改修した施設は自分が自分でいられる安らぎの場所。認知症に有効な精神療法の一つとして注目されている。費用も安く、高齢化の進展で今後、さらに需要が増えるだろう』と述べています。

実際に、このような古民家を改修して介護施設を開設する動きは都市部の他、空き家対策を兼ねて地方でも広がりつつあり、関心を寄せている自治体も少なくありません。

長野県は02年度、民家を介護施設に改修する際に最高750万円を補助する制度を新設。施設数は翌年度グループホームを中心に倍増して160カ所となり、08年度は350カ所を超えました。昔から地域にあった民家だからこそ、気軽に立ち寄りやすく、家族も安心できて、また新設に比べて改修費用が安く済むため利用料を抑えられる利点なども見込み、今後は古民家の利用の幅がさらに広がっていくことが期待されています。

前述のトータルケア社代表・田北氏は熊本出身。結婚を機に明智町に移ったが、周りに知人もなく「さみしくて人との繋がりを求めて、熊本に住んでいたころに行っていたボランティア活動（現在の訪問介護サービス）を明智町で始めた」との事で、その後ケアマネージャーとして社会福祉協議会での勤務を経て4年前に退職。明智町で居宅介護支援事業所を開設し、現在まで介護業界に34年間携わっています」とのことで「地元の介護が必要な方が集まってゆっくり幸せに過ごせるような場所を提供する念願の想いを結集した、ケアホームあじさいにはこれから多くの利用者の笑顔があふれていくでしょう。

（ライフケア事業部・渡辺）

グループホーム

介護保険制度で介護が必要と認められた高齢者のうち、認知症の人たちが介護事業者のもとで共同生活する施設。厚生労働省の設置基準では「家庭的な環境」「地域住民との交流」などがうたわれている。2002年に全国で2200カ所だったが、07年には8800カ所と大幅に増えている。

この度「ケアホームあじさい」さんの駐車場整備工事を元受けである地元の建築業者さんより拝命致しました。当事業所は24時間営業です。その為、夜間に出入りする際に安全に駐車が出来るようにと注意を払い施工致しました。通常の反射板付きパーキングブロックは反射板がブロックの上の面に設置してあります。しかしこの位置のものは運転手がバックで駐車する際にミラーによく映るとは言えません。そこで、この欠点を補うように運転手から見やすいようブロックの前面に反射板を埋め込み新製品を取り付けさせて頂きました。前面に反射板を設置すると見え易い半面、剥がれ易いと云う欠点がありますが、この製品は埋め込み式になっており、そうした心配もありません。

最後に、施工前には専務の田北浩二さんにわざわざ弊社までお越しいただきました。また、日曜日の施工であったにも係わらずお休みを返上して立会をして頂いたこと等など、大変お世話になりましたこと感謝申し上げます。

（営業部・水野）

介護の現場から　シリーズ -4-

Kanekuコーポレーション　LifeCare ライフケア

本当の住宅改修を

■耳を傾けて

よく、ご本人や家族から「手すりをつけてほしい」とご依頼いただくことがあります。でも、私たちは安易に「つけさせていただきます」とはお答えしません。私たちの第一歩は、「ご本人の想い」「ご家族の想い」に耳を傾けることから始まります。そして、「どんな生活をさせてあげたいか」「どんな暮らしの目標を確認しますか」という暮らしの目標を確認します。そして、「なぜ、それが出来ないか」を考え、目標に対して現実感を抱いて頂きながら環境の問題点と改善による可能性を共有させて頂きます。

■自立を高める動線の見直し

「どんな生活がしたいか」の想いから動線を配慮することにより「したい生活」から「出来る生活」が実現することもあるのです。

ベッドから起き上がり、立ち上がること、そして扉まで辿りつきトイレやお風呂に行くこと、自分の部屋に閉じこもらず食堂や居間で家族と過ごしたり、または外出したい、そんな想いを「自分でも知らず知らずのうちに「どうせ出来ない」などとあきらめている高齢者の方々はとても多くいらっしゃいます。負担が少なくなったり安全に移動できるといった環境が変わることでそれが出来るようになることも少なくありません。

■本人・介助者・道具（福祉用具）・住宅改修

「ご本人の能力」を見極め、一つの行為が完全に出来なくても、なんとかご自分で出来る方法やちょっとした工夫、または「介助者」の手助けにより出来る方法を探ることと気付かせることも大切です。そして「介助」を全面的に人だけに依存せず福祉用具を活用することで、ご本人だけではなくご家族の負担も軽減できることも組み合わせることもに、住まいの中にある様々なバリアを解消しそれらをバランスよく組み合わせトータルで計画していくことが大切かつ最も合理的な方法であるといえるでしょう。

■私たち福祉住環境コーディネーターの役割

福祉住環境コーディネーターは、住宅は生活の基盤であるという基本的な考え方のもとに、医療、福祉、建築などに関する知識を身に付け各専門職と連携をとりながら適切に対処するとともに、常に生活者としての視点から住環境整備を必要とするあらゆる人の置かれている状況を総合的に把握して、「どのような住環境が適切か、現状の問題点は何か」などのニーズを見つけ出し、ときには、本人さえ気づいていないニーズを明らかにしていきます。そして、問題に対する具体的な解決・改善策を示し実行して、その人のQOL（生活の質）を高めていくとともにADL（日常生活動作）とIADL（手段的日常生活動作）を向上させることに努めています。また、ライフケア事業部の福祉住環境コーディネーターは、福祉用具の相談員でもあり、様々な地域で在宅介護サービスを通して福祉用具のレンタルや販売も提供させて頂いており、住環境をトータルに提案させて頂いています。

（ライフケア事業部・川嶋）

お問い合わせ

サービス内容	メニュー	お電話番号	担当者	部署	会社名
土木建設資材	コンクリート製品・塩ビパイプ・グレーチング・フェンス・カーポート	0573-26-1811	安保	営業部	Kanekuコーポレーション kaneku.com info@kaneku.com
介護に関するご相談	在宅介護や介護保険制度について		田中	ライフケア事業部	
福祉用具レンタル	ベッド・車いす・手すり・スロープ・歩行器・リフト		川嶋		
福祉用具販売	ポータブルトイレ・入浴補助用具・自助具		市岡		
介護用リフォーム	手摺・バリアフリー工事・福祉住環境コーディネート		今井		
砂販売	ゴルフ場用バンカー砂・園芸用砂・土木建設用洗い砂	0573-68-2527	伊藤	営業部	恵那峡サンド
リフォーム	キッチン・トイレ・お風呂・外壁・塗装	0573-26-4114	田口	住宅事業部	セントラル建設株式会社 central1961.com info@central1961.com
建築工事	新築・増改築・耐震・店舗・事務所		木藤		
エコ住宅工事	太陽光発電・オール電化（エコキュート・IH・エアコン）		長谷川		
土木・舗装工事	宅地造成・アスファルト舗装・上下水道・コンクリート工事・排水工事		長尾・水野・前田	営業部	
外構工事	エクステリア・ガーデニング・車庫まわり				
せんとらるライナーに関して	記事についてのお問い合わせ 紹介したいお店、人、カタログ請求		木藤	せんとらるライナー編集局	

読書尚友 ～読書をして昔の賢人を友にすること～

古典六十選　…グループ代表阿部伸一郎…

5/60 「堕落論」 坂口安吾 1906～1955

風変わりで異質。未だに扱い方が分からない人。それが安吾。明治三十九年丙午の生まれに因んで本名は炳吾（へいご）。坂口家は新潟の代々の旧家で、大地主。父は漢詩人で衆議院議員。新潟日報の社長でもあった。幼少期から破天荒な性格だったが、芥川龍之介や北原白秋、チェーホフなどを愛読していたと云う一面も持つ。新潟中学へ進むも殆ど授業に出なくなり留年。翌年落第の可能性が大きくなり、東京の中学に編入。六十五歳で父が亡くなると膨大な借金が発覚。坂口家は没落する。中学を卒業後、進学をあきらめ小学校の代用教員となる。この実生活と生まれとのギャップから堕ち込み仏教に感心を抱く。やがて、代用教員を辞め大学でインド哲学に没頭。睡眠時間を一日四時間と決め、一年半の間仏教書、哲学書、サンスクリット語に次いで、ラテン語、フランス語を猛勉強。そして、フランス文学に興味を抱きアテネ・フランセに通い始める。ここでの友人等と同人誌「言葉」を創刊。小説家を志す。この本にもある「風博士」を島崎藤村の弟子牧野信一が絶賛。藤村も認め一躍新進作家となる。

終戦の翌年「堕落論」を発表。「人も日本も堕落せよ、堕ちるところまで堕ちよ」と挑発的なメッセージを発信し、時代の寵児となる。お座なり、卑怯、インチキ、欺瞞が許せず、剛合い、伝統、束縛と云うものを嫌い、世相をぶった切る安吾は太宰治、織田作之助とともに無頼派の代表であった。無頼派は往々にして破滅型とも云える。安吾も当時はまだ許されていた覚醒剤ヒロポンを服用した。ヒロポンを飲むと寝られない。寝られないから大量の睡眠薬を大量の酒と一緒に飲む。そしてアル中に。そんなハチャメチャな生活で身体はボロボロ。半狂乱状態。喧嘩、警察沙汰は日常茶飯事。壇一雄と一緒に信州松本に旅した際にも暴れて御用に。翌朝、留置所で長男の誕生を聞いたと云う武勇伝は有名。話は少しそれるが、太宰治、織田作之助、坂口安吾の無頼派が通った酒場がある。東京銀座のルパンと云うバーがそれだ。昭和三年にオープンし文豪のたまり場として有名な店で、現在も営業している。L型になったカウンターの奥には、ここで飲む三人の写真がある。偉そうな事を書いているが、実は私が坂口安吾を知ったのはこの店の写真からであった。今度、その奥のカウンターに座り、安吾の隣で、安吾が決まって頼んだと云うゴールデンフィズとやらを飲みながら、この堕落論をペラペラとやってみたいと思う。

２年余り掃除をしていない部屋で執筆中の坂口安吾

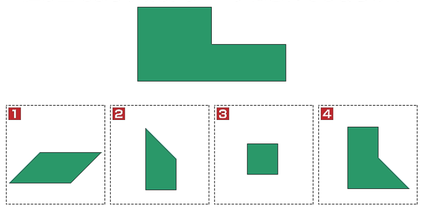
さて、閑話休題。安吾文学は、敗戦に打ち拉がれていた日本人の思考に刺激を与えたと言う。今日の日本も経済危機、財政難、デフレ、超高齢化、荒唐無稽な政治、秩序の崩壊・・云々と未来に希望が見いだせず心が打ち拉がれていると云ってよかろう。こんな時代を生き抜く恩念として、暗闇の向こうで安吾が不気味な光を放っているように思える。

左奥の三枚の写真が無頼派の三人　銀座・ルパン　東京都中央区銀座5-5-11

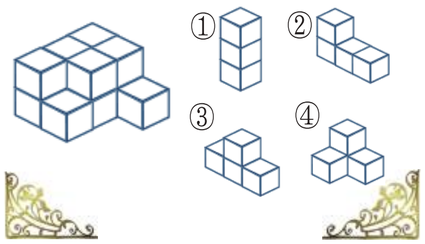
ゴールデンフィズ

せんとらるStation待合室

パーツを合体させて下の図形になるように組み立てます。余分なパーツはどれでしょうか？



下の立体を作るときに必要のないパーツはどれでしょうか？



せんとらるライナー乗務員室

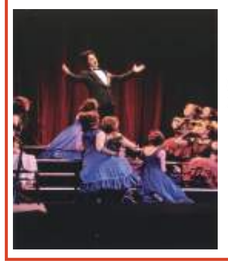
尾崎　和夫

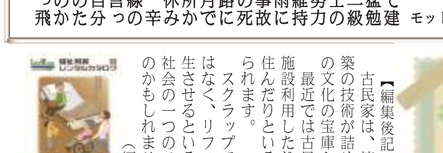
住まい／恵那市大井町
所　属／セントラル建設工務部
勤　続／5年
趣　味／マウンテンバイク
利き酒
モットー／日々精進　道は開ける

昨年夏、オペレッタ「チャルダッシュの女王」のオーディションが行われた。応募者総数は百名を超えた。その大半は現役の劇団員やオペラ歌手。その中から見事メインキャストを射止めたのは、なんと恵那市役所に勤務する市川さん。この二月に名古屋栄アートピアホールで三日間、合計五回上演され連日満席の大好評。延べ三千人の聴衆を魅了した。全十六シーンの内出演者中最も多い十四シーンに登場。ソロ、デュエット、カルテット他で十曲以上のソリストを務めた。いつかはソロコンサートをと夢を抱き、普段の生活とのバランスをたもちながら、ますます研鑽に励んでいる。

せんとらるライナー一日車掌

異色の公務員テノール歌手・市川太一さん





【編集後記】

古民家は、統的な木造木建築の技術が詰め込まれた日本の文化の宝庫とも言えます。

最近では古民家を改修して施設利用したり、若い世帯が住んだりという事例が多く見られます。

スクラップアンドビルドではなく、リフォームをして再生させるということは、エコ社会の一つのスタンダードなのかもしれません。

（編集局　木藤）

伝言板

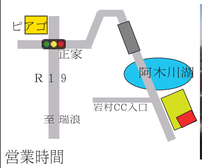
大井町橋場のミユキ美容室が三月二五日移転新装オープン。オーナーの原田・ふきこさんと三人の娘さんで営む。四人全員が美容師資格を持つお店として知られている。

恵那市大井町旭ヶ丘三八九一
電話　〇五七三―二五―二九五六

せんとらるライナー　食堂車

『malceマルセ』

オーナーの藤川さんは叔父が経営し弟が料理長を務める大阪の評判店「炭味屋」で修業し昨年九月にオープン。阿木川湖畔を一望出来きる抜群の景観。木目調のアジアンチックな店内にはミロ、シャガールのリトグラフが掛かる。湖面に面したタイ風シーフードカレーなどのお任せディナーコースが楽しめる。



営業時間
モーニングAM 8:30～AM10:30
ランチ　　AM11:30～PM14:00
18:00以降は予約のみ
(一人三千円～。四名以上)
定休日　毎火曜、第三水曜日

恵那市岩村町飯羽間字小沢山3689-167
（岩村CC入口正面広場内）
電話0573-43-3707

『きじゃ』

「おいしいものを、おいしいときに、おいしい食べ方で召し上がっていただきたい」というこだわりのきじやは、今年の秋で二十周年を迎える。使えば使うほど愛着がわくようにという想いで建てた店は、よく手入れがされており二十年前の姿を保ち続けている。

今年は『ありがとう二十年』と題し、感謝の気持ちを込めたイベントを毎月開催。五月は二十九日（土）午八時半よりドリンク全品五百円とバイキング料理イベント。ただ今予約受付中。

営業時間
AM11:30～PM14:00
PM17:00～PM22:00
定休日　日曜日

岐阜県恵那市大井町154-3
0573-25-4128